

令和6年度(2024年度) 自己評価書

北海道清水高等学校

1 本年度の重点目標

- ・授業改善により主体的に学ぶ喜びを感じさせ、課題について考え、他と協議しながら行動する学習指導を推薦する。
- ・生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む発達支持的な生徒指導を実践する。
- ・夢を持たせ、その実現に向け持続的に取り組ませるキャリア教育を推薦する。

2 自己評価結果及び改善方策

評価の段階は、A:「十分である」、B:「概ね十分である」、C:「不十分である」、D:「改善を要する」であることを示している。

大項目	中項目	評価項目		達成状況	取組の適切さ	今後の改善方策等
		番号	小項目			
教育活動方針	学習指導	1	地域と協働した探究的な学習活動を体系的に編成・実施し、課題について主体的に考え、他と協議しながら行動する力を育む指導ができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬議会、観光協会理事の取組、地域の販売会への参加等を通して探究的な学習活動をさらに充実させる。 ・今後も評価結果に基づいて指導を改善していく取組について研究していく。 ・効果的なICT活用に向けて、より一層研修を推進する。
		2	観点別評価を効果的に実施することで、学習指導の改善と学習意欲の向上につなげることができたか。	B	B	
		3	校内研修においてICT端末を効果的に活用した実践事例を共有し、各教科の試行へとつなげることができたか。	B	A	
	生徒指導	4	いじめ未然防止など自律した学校生活の実現に向け、執行部各委員会に自主的な取組をさせることができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しい企画だけでなく、自律した学校生活につながる企画を積極的に検討できるよう働きかける。 ・今後とも多様な生徒に寄り添いながら、指導を実践していく。 ・社会に出てから困らないよう適切に社会性を育む指導を実践する。 ・あらゆる教育活動を通して生徒に考えさせ規範意識を醸成していく。
		5	生徒に寄り添い、個々の生徒に自己有用感を育む生徒指導を実践できたか。	A	A	
		6	生徒主体の活動を推進し、社会性と適切な自己主張ができる力を育てることができたか。	B	B	
		7	学校生活のルール等の在り方を生徒自ら考えさせることを通じて、自律的な規範意識を身に付けさせる。	B	B	
	進路指導	8	総合学科の特色を活かした教育活動全体を通して自己の生き方を模索させることができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「産業社会と人間」「総合的な探究の時間」に関する学習プログラムの充実を図る研修に取り組む。 ・引き続き、地域や産業会等と連携し、インターシップ、分野別ガイダンス等の取組をより一層充実させる。 ・キャリア発達アンケート、自己分析面談などの機会を活用し、今後も充実を図る。
		9	地域や産業界等と連携した体験的な学習などを通して進路目標を定め、その実現に向けた取組を充実させることができたか。	A	A	
		10	キャリア教育において、場面に応じて適切に自分の意見を主張する力を育てることができたか。	A	A	
健康・安全指導	11	感染症や熱中症予防の学びを、学校生活での健康・安全への取組につなげることができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症や熱中症予防への学びは進んでおり、今後は自己管理ができるよう指導を充実させる。 ・校内組織の連携による情報共有は進んできた。今後、外部機関等との連携を充実させていく。 ・教務内規の改訂を進め、具体的なシステム、担当、対応を明確にし、充実を図る。 	
	12	年次・サポート委員会・スクールカウンセラー・教務部など校内組織の連携を迅速に行うとともに、外部識者・関係機関を含めたケース会議やいじめ防止会議等を開催し課題の共有を図ることができたか。	A	B		
	13	ICTを活用し、不登校生徒等に柔軟な学びの保障や教育相談体制を充実させることができたか。	B	B		
学校運営方針	信頼される学校づくり	14	コミュニティ・スクールの導入初年度にあたり、計画的な運営に努めるとともに、令和7年度に向けた改善方策を明確にすることができたか。	B	C	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への認識や理解が十分でなかったため、積極的な情報共有を行いながら充実を図る。 ・幼小中と連携した取組が実施されており成果を挙げている。今後、より一層充実させる。 ・道外からの入学希望者を確保できたが、今後は下宿等の確保など、保護者が安心して送り出せる体制づくりが必要である。
		15	生徒による情報発信を充実させるとともに、幼小中への相互乗り入れ活動を実施することができたか。	B	A	
		16	道外生徒の国内留学受入による教育効果を、校内・地域に波及させることができたか。	B	A	
	校務運営	17	校務の削減・統合・整理を念頭に、新たな視点で校務にあたり、効率的な分掌運営を行うことができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・意見を交わすことができたが、効率的な分掌運営につながっていないため、今後積極的に取り組む必要がある。 ・質問等が多く、各分掌や組織で共有できていないことを改善する。また、会議中の資料説明の時間を減らし、効率的な議論ができるよう努める。 ・発言や多様性は尊重されているが、必ずしも心理的安全性に結び付いていない。建設的でない発言を避け、解決に向けた前向きな話し合いができるよう努める。
		18	引継を確実に行うとともに、企画調整会議等で情報・課題を共有することができたか。	B	B	
		19	生徒・職員相互の発言や多様性が尊重され、学校の心理的安全性は確保されていたか。	B	B	
	渉外・総務	20	家庭・PTAなどの団体や関係機関等と連携し、地域と協働した学校運営ができたか。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭・PTAなどの団体や関係機関等と連携できており、今後も時代に合わせた地域協働に努める。 ・FMJAGAのラジオ番組など、積極的に広報活動が行われている。今後は、検証をもとに効果的な生徒募集の方法を検討する。
		21	積極的な広報活動に努め、より効果的な生徒募集を行うことができたか。	B	A	
	教職員の資質向上	22	令和8年度の第2段実施までに、校内外でのキャッチコピーの定着を図ることができたか。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・意識はされているが、定着までに至っていない。今後充実を図る必要がある。 ・研修に参加しやすい環境づくりを進めるとともに、研修成果を還元できるよう工夫する。 ・常に意識して行動しているが、効果的な研修の機会を設定するよう努める。
		23	ミニ研修報告を随時行うとともに、本校職員のアイデンティティ形成に資する校外研修を実施することができたか。	B	B	
24		地域から信頼される清高職員であるために、自ら率先して服務規律に係る研修に努めることができたか。	A	B		